

日中友好新聞

読字英原田 親

No. 580

2009/8/5

日中友好新聞

発行所

日本中国友好協会

〒113-0045 東京都千代田区西船場1-1-1 東武ビル3階

日中友好協会 岡山支部

〒700-8236 岡山県岡山市東区3-8-30 511

TEL:0861272-3010

郵便番号11所 01250-0-3835

日中友好協会 倉敷支部

〒713-0911 倉敷市連島中央1-8-1 (宮地方)


TEL/FAX:0860446-2711

日中友好協会岡山支部ホームページ

<http://rizhong.web.infoseek.co.jp>

メールアドレス

rizhong86@hotmail.co.jp



「中国の現状を知ろう」・文化講座の開催

第1回理事会

日中友好協会倉敷支部

倉敷支部では、7月28日に、総会後初めての第一回理事会を開きました。まず第5回総会の感想を出し合いました。感想では、市長代理が来られてあいさつがあったのはよかった、「二胡の演奏で開会したのがよかった」、空員の発言があった、「お弁当を出したのがよい、これからは総会ではお弁当を出そう」などの感想が寄せられました。

そのあと総会後の会員の増減の報告があり、岡山支部からの移動で2名増えたことが報告されました。

協議事項では、総会で出された中国をもっと知りたいという会員のご意見に、どうこたえるかに議論が集中しました。その結果、季刊中国の雑誌の発刊のたびごとに、中国の現状を知ろうという文化講座を支部でひらくことになりました。



新装なった「南京事件大虐殺記念館」の一角にある平和の塔

第一回は、この秋から開くことになり、次回の役員会で具体化する事になりました。また、10月の中国・友好の旅を広く宣伝すること、中国青年と日本青年との交流会を倉敷で開くこと、中国料理を楽しむ会の実施などが協議決定されました。

(栗本泰治)

きりえ展が開催されました。

第22回岡山きりえ展が、七月十四日から十九日まで、岡山県天神山プラザで開催されました。この展示会は、岡山きりえの会(事務局は、横谷さん宅)が主催し、日中友好協会岡山支部は、協賛団体として参加しています。

私は、七月十八日に参観しました。この日は、日中岡山大極拳の会員である横谷さん、三宅さんが受付当番の日で、二人で記念写真を撮りました。二人は名香会の会員で、横谷さんは美術館の庭、三宅さんは銀の葉の下で」を出品されています。



横谷さん 小林さん 三宅さん

小林軍治

中国と日本の架け橋 南蓮さんのお別れ会

日中友好協会の中国語講座の講師として、活躍して下さっていた南蓮さん(中国・吉林省出身)が、東京のご主人の元へ行かれることになり、7月22日にお別れ会をしました。2004年から中国残留孤児国家賠償訴訟の通訳として、裁判最終後は岡山市の支援・相談員として、関わってくださいました。

北京へ(1) 坪井あきこ

欲張り！北京4日間というツアーに参加してみた。万里長城をはじめ、五つの世界遺産めぐり、北京飯店泊、全食事件で三万九千八百円という安さに――その秘密は何だろうという好奇心もあった。

見送られて出発。大連で入国手続き。新型流感に神経をとがらせている中国は、七月から健康状態の報告書の提出を義務づけるようになった。余談だが、毎年二ヶ月ほど大連交通大学へ遊学している私は今年もFAXで申し込んだ。5月初め 天歓迎の返事を受け取り準備をしていた中旬、突然 日本のお客の増加がはげしいので、状況がおちつくまで待つてほしいと、やんわりと拒否されてしまった。そのなつかしい大連で乗り継ぎの時間を過ごす。(つづく)

内山集会二題II

大森久雄

井原市での内山完造集会のとき、南一平さんが中国人留学生のために魯迅肖像を描かれた。南さんは「漫画内山完造の生涯」の作者。ちょうどその場に居合わせた知人、黒田寛さんが持っていた魯迅の詩集に一筆頼んだ。ご好意で複写を紹介する。



開演前、前庭のテント内で日中友好うどんをすすった。ごぼうとギョーザの組み合わせだ。横に座った人はどこかで見た顔だ。石井知事だった。会場ロビーにある内山像の文字を書かれている。それらを少し話合った。

長野元知事にも、中国蘇州で会ったことがある。よう来られるんですか。いやあ、まあ、ときどき。例のあいまいな笑い顔だった。

参加者は訴訟弁護団から、奥津氏、則武氏、残留孤児原告だった高杉氏、大森氏、高見氏、南蓮さんの後継者として中国語講師をされる馬小菲(マシア オフエイ)さん、日本語教室で教えられていた曾田氏、山陽新聞記者平田氏、日中友好協会から、竹内和夫理事長をはじめ7人の計16人。多彩な顔ぶれです。南蓮さんの活躍の様子が伺われます。孤児の境遇を心の底から考えてくれた。裁判での通訳はすばらしかった。寂しいけど、家族が一緒になれて嬉しい。孤児の皆さんや弁護士言葉です。南蓮さんは胸がいっぱい。孤児や日中友好のため私にできることをこれからもやっていきたいと挨拶されました。南蓮さんへの感謝の気持ちを持って、絆を確かめ合いました。

稲葉泰子

ああ満蒙開拓団

大森久雄

東京での大会の帰り、岩波ホールで羽田澄子演出作品「嗚呼満蒙開拓団」を見た。戦中、国策により満州へ送られ、敗戦時に見捨てられた開拓団の真実を体験者の証言を柱に静かに語る。証言場面ではカメラは動かさずじつくりと人物を写し取る。日中国交回復より9年前に、方正(ほうまさ)地区日本人公墓が中国側により建てら

れている。日本軍団主義と日本人民とを厳格に区別する周恩来の考え方が高く評価される。



開拓団の悲劇と残留日本人を生んだ国家の責任を静かに鋭く問いかける記録映画である。秋頃には岡山市のシネマ・クルールで上映されるようだ。

本の紹介



「孫玉福」

39年目の真実

—あの戦争から—

遠く離れて外伝—

著者 城戸 幹

定価 1500円

発行所

(株)情報センター出版局

この本は、副題にもあるようにあの戦争から遠く離れての著者城戸久枝さんの父親「幹」さんの自分史です。同時に、1949年10月に建国された中華人民共和国の

庶民の生活」を知る上でも貴重な本です。残留孤児」を生み出した戦争の傷の深さ、日本人と知りながら育てた養母、友情を深めた同僚など中国民衆の温かさが読む者の心に染みます。一方で、政治運動のたびに日本人であるがゆえに「日本鬼子」と蔑視され、挫折し苦悩する姿とそれらと戦い日中国回復前に日本へ帰国を果たす展開は、読者に勇気と感動を与えます。歴史に翻弄されながら？たくましく生き抜いた、中国「残留孤児」が日本語で書いた希な本です。

写真展

祖国よ

—中国「残留日本人

孤児」は いま—

とき 8月17日(月)

8月21日(金)

※最終日は4:00まで

ところ 総社市役所

1階ロビー

主催 総社市・

総社地域平和委員会
中国帰国者の
総社日本語教室

ガンバレNHK

「未来を見通すカギは歴史の中にある」としてNHKが立ちあげたテレビに、安倍晋三ら右翼が攻撃している。これに対しNHKの福地会長は「すべて事実に基づいて描いているという自信を持ちました」とのべて、がんばっています。NHKは8月、戦争と平和を考える特集番組を作っています。

戦争と平和を考える NHK 夏の特集番組

ドキュメンタリー

「ヒロシマ 少女たちの日記帳～8時15分までの物語」
(6日NHKテレビ、午後8時～)

広島第二高等女学校の1年生223人は、爆心地から0.6キロ地点で建物疎開の作業中に被爆、全員が亡くなりました。残された日記帳には、戦争に追い詰められながらも、精いっぱい生きる少女たちの日常がつつられていました。再現ドラマと日記、遺族の証言をもとに生徒たちの悲劇を描きます。

NHKスペシャル「大地に刻まれた“核”～旧ソ連・核実験村からの警告(仮)」(6日、NHKテレビ、午後10時～)

旧ソ連の核実験場があったカザフスタン東部のセミパラチンスク。467回の核実験が繰り返され、150万人が被害に遭ったとみられています。

「ノーモア・ヒバクシャ～核兵器のない世界を目指して」
(7日、NHKテレビ、午後7時30分～)

アメリカのオバマ大統領が核兵器のない世界を宣言。広島・長崎をはじめ、核実験場の周辺で被ばくした人々が連携し、行動を始めています。

「渡辺謙. アメリカに行く日米の狭間に生きたヒバクシャたち」
(7日、NHKテレビ、午後10時～)

在米被爆者の戦中戦後史を、渡辺謙のレポートで伝えます。

「あの日 僕らの夢が消えた～〃幻の被爆学校”生徒たちの64年(仮)」(8日、NHKテレビ、午後10時～)

爆心地からわずか500mで被爆した長崎の旧制・鎮西学院中学校。60年以上を経て消息が判明した当時の生徒たちを追います。

「戦争 家族の肖像～あの時・私たちはどう生きたのか」
(14日、NHKテレビ、午後7時30分～)

太平洋戦争における日本人犠牲者は330万人。これまでNHKが記録してきた元兵士や市民、200人を超える証言を基に、真珠湾から敗戦に至る過程を立体的に再構成、太平洋戦争の現実に向き合います。

「日本の、これから」(15日、NHKテレビ、午後7時30分～)
「終戦の日」の夜に「核」について市民と有識者が討論します。

ドラマ

「アンネの日記」(3日～7日、教育、午後7時～)

ナチスから逃れ、アムステルダムで家族と隠れ住んだ少女アンネ・フランクの生活を、ドキュメンタリー・ドラマで再現します。

NHKスペシャル終戦ドラマ「気骨の判決」(16日、NHKテレビ、午後9時～)

1945年、「翼賛選挙は無効」と断じる判決を出した大審院(今の最高裁)判事・吉田久たちの生き様を描きます。東条英機内閣のもとでの総選挙では、政府に非協力的な候補者に露骨な選挙妨害が行われました。

ラジオ

ラジオ深夜便「戦争インタビューシリーズ」(10日～14日、ラジオ①、FM、深夜1時10分～)

太平洋戦争体験者や、世界の紛争地帯で平和のために活動する人たちの証言を聞く40分サイズのインタビューを送ります。

次回の新聞発送作業は8月11日(火)午後1時半～民主会館2階で行います。前回お手伝いくださった方です。

青木由
小林和
竹内和
竹内製